

地盤調査規格・基準委員会

平成21年度第2回 議事録

日時	平成21年 8月3日(月) 14:00~17:00			場所	地盤工学会 会議室		
委員長	谷 和夫		幹事(岩)	長田 昌彦		幹事(土)	利藤 房男
委員	別木 孝	×	WG1委員	松島 潤	×	WG1委員	林 宏一
WG2委員	木村 英雄		WG2委員	水谷 崇亮		WG3委員	井尻 裕二
WG3委員	小松 満	×	WG4委員	平林 弘		WG5委員	小早川 博亮
WG5委員	山本 裕司		WG6委員	中村 洋丈		WG7委員	浅井 健一
WG7委員	藤崎 勝利		WG8委員	日比 義彦		WG8委員	藤根 拓
WG11委員	郭 賢治						

:出席 :代理出席 ×:欠席 :未定

配布資料

委員会名	資料	資料の有無・番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録 (H21-5-13)	・ 資料21-2-1
ワーキング11 スウェーデン	・ JIS A 1221 スウェーデン式サウンディング試験方法 ・ 改定箇所抽出 ・ ISO Weight sounding test 投票結果	・ 資料21-2-2(1) ・ 資料21-2-2(2) ・ 資料21-2-2(3)
ワーキング5,6 載荷試験、現場密度	・ JISA1214 砂置換法による土の密度試験方法改正案 ・ JISA1215 道路の平板載荷試験方法改正案 ・ JISA1222 現場CBR試験方法改正案 ・ 修正箇所一覧表	・ 資料21-2-3(1) ・ 資料21-2-3(2) ・ 資料21-2-3(3) ・ 資料21-2-3(4)
地盤調査規格・基準委員会	・ 地盤調査方法と解説 規格・基準の総括表	・ 資料21-2-4
同上	・ 平成22年度以降のメンバーに関して	・ 資料21-2-5
基準部会	・ 平成21年度第2回議題書	・ 資料21-2-6
土木技術専門委員会	・ 室内試験JIS解説	・ 資料21-2-7
WG4 サウンディング	・ ワーキング議事録 (H21-7-27)	・ 資料21-2-8
会員からの質問	・ 質問内容と回答	・ 資料21-2-9

審議事項

(1) 前回議事録確認(資料21-2-1)

・ 特に意見なし

(2) JIS改正スウェーデン(JIS A 1221)審議(資料21-2-2(1)~(3))

8月中旬までに意見があれば幹事へ提出。9/17のワーキングで修正案を作成。それを基に10月地盤調査規格・基準委員会メール審議。その後基準部会審議予定。

JIS改正案に対する修正等意見は以下のとおり。

- ・ 3 用語及び定義のa)~d)は、3.1~3.4に修正。改行も必要(JISZ8301-2008のp74参照のこと)。
- ・ 同上、b)~d)の文末は体言止であるので「。」は不要。
- ・ 同上、a) W_{sw} 及び N_a 及び N_{sw} W_{sw} 、 N_a 及び N_{sw} に修正。
- ・ 同上、a)~d)の定義に「静的貫入抵抗」という用語が用いられているが、5pは「半回転数」となっており、定義を再検討する必要有り。
- ・ 図1の単位は、図の右上に「単位:mm」と表示し、図中のmmは削除する(JISZ8301-2008のp23参照のこと)。ただし、角度の

「°」は図中に必要。

- ・ 4 試験装置及び器具のc)の「1)」は不要。ただし、c)の2)は、d)に変更する。
- ・ 同上、c)の2) 2行目、「回転速度は1分間に40～60半回転程度とする。」「回転速度は1分間に60半回転程度で制御できるものとする。」
- ・ 同上、「d)引き抜き装置」「e)引き抜き装置」、に変更。
- ・ 同上、1～2行目、「を引抜くもので、ロッド」の部分削除。末尾、「有するもの。」「有するものとする。」に変更。
- ・ 同上、「e)記録用具又は装置」「f)記録用具又は記録装置」、に変更。
- ・ 同上、1行目、「記録用具又は装置」「記録用具又は記録装置」、に変更。2行目末尾、「もつもの。」「もつものとする。」に変更。
- ・ 同上、3～4行目、1)、2)の文頭を正しい位置へ。
- ・ 5 試験方法のa)2行目、「3mm以上磨耗した」「最大径が3mm以上磨耗した」に変更。
- ・ 同上、f)1行目、「地表面に達したら」「地表面付近に達したら」に変更。
- ・ 同上、f)1行目、「鉛直度を確認しながらロッドを継足し」の文章は不要では。注記にしても良いのでは。
- ・ 同上、i)2行目、「荷重」「おもり」に変更。
- ・ 同上、j)の1)、「貫入量5cm」「貫入量0.05m」に変更。規格全体、「cm」は「m」に単位を変更する。
- ・ 同上、j)の1)～3)の文末は体言止であるので、「。」は不要。
- ・ 6 記録及び整理のc)、「有効数字3けた目を丸めて」は不要。文末、「までとする。」「まで表示する。」に変更。
- ・ 同上、「 $N_{sw}=100/LN_g$ 」「 $N_{sw}=N_g/L$ 」に変更（cmをmへの変更に伴う）。
- ・ 同上、e)1行目、「試験状況等」「試験状況」に変更。「貫入音、貫入状況・・・を記録する。」の文章は、注記とする。
- ・ 7 報告のi)、 N_{sw} の単位「N」を記載する。「静的貫入抵抗」文頭の位置を合わせる。

(3) JIS改正3案(JISA1214、1215、1222)再審議(資料21-2-3(1)～(5))

委員会での指摘を修正し、9/10の基準部会の審議事項とする。基準部指摘に対する対応は網掛け等でわかる様にしておく

JIS改正案に対する修正等意見は以下のとおり。

- ・ JIS A 1214、p6表2の水温の単位、小数点以下必要ないか確認する(試験法や理科年表)
- ・ JIS A 1215、p1の2.3地盤反力係数、「単位面積当りの地盤からの抵抗力」の定義が正しいか確認する。

(4) 地盤調査の方法と解説 本文の目次構成とISO規格への対応に関して(資料21-2-4)

- ・ 第12編の4基準は、第11編に移動したほうが良い。
- ・ 第12編の「災害、維持管理」等、地盤汚染と違う項目は12編からはずして、第11編の前に持っていったほうが良い。
- ・ 傾斜計の基準番号が違っているので修正する。
- ・ 孔内水平載荷試験、ベーンせん断試験に関して、第6編とするか第8編とするかを、WG4とWG5で協議する。その際、WGのメンバー構成やワーキングを共同で開催すべきかどうかについても検討する。

次回委員会までにワーキング(WG4及びWG5)で案を作成する。

(5) 平成22年度以降のメンバーに関して(資料21-2-5)

- ・ WG2のメンバーに関し、コンサルタント会社から2名追加で推薦する。
- ・ 各ワーキングのリーダーは、技術的内容に詳しい人を慎重に選定して欲しい。
- ・ 各ワーキングの幹事は、少なくとも1名は地盤調査規格・基準委員会のメンバーとする。
- ・ メンバー票の書式を幹事から送るので、次回の委員会前に提出する。

報告事項

(1) 基準部会報告(資料21-2-6)

- ・ ここ数年間に制定した新基準をまとめた小冊子の発行について確認することとした。

(2) 土木技術専門委員会報告(資料21-2-7)

- ・ 特に意見なし

(3) ワーキング4報告(資料21-2-8)

- ・ ISOと団体規格であるJGSの整合に関しては、将来的にはISOに準じるべきとの意見と、特にISOに準じる必要は無いのではないかとの意見あり。

・ワーキング4で審議中のJIS、2案件に関しては、12月頃までには規格改定案を地盤調査規格・基準委員会の審議にあげる予定である。

(4) 会員からの質問と回答(資料21-2-9)

・特に意見なし